

広島大学 海外拠点一覧・活動記録(2023 年度まで)

1. 広島大学北京研究センター



(1)センター紹介

広島大学北京研究センターは、広島大学初の海外教育研究拠点として、2002年10月25日に、中華人民共和国北京市にある首都師範大学国際文化学院の中に設置されました。

センターの設置目的は、(1)研究者相互の共同研究及び研究者交流の支援、(2)優秀な留学生の確保、(3)広島大学からの留学支援、(4)日本事情の紹介と情報発信、などであり、現在これらの目的を達成するために具体的な取り組みが進められています。

首都師範大学国際文化学院の新研究棟完成に伴い、2004年10月に新研究棟内に移転し、従来の約5倍の面積に拡充しました。会議室・事務室・教室・茶室などを備えており、日本語の堪能な現地スタッフもいます。

※2024 年度から新体制

(2)センターの取組・概要等

・広島大学北京研究センター

1. 優秀な留学生の確保

(1) 研究科説明会の実施, 留学説明会参加

(2) 中国地区留学フェアの実施

(3) 入試の予備審査実施

(人間社会科学研究科, 先進理工系科学研究科, 共同大学院, 森戸国際高等教育学院)

(4) 各種短期研修(派遣・受入)の実施

(5) 3+1 プログラムの広報

2. 広島大学からの留学支援

(1) 教員・学生への教育研究活動支援

3. 中国校友会との連携



4. 共同利用の促進(中国地方の大学)

5. 日本語スピーチコンテストの実施

(3)センターの理念

①日本事情の紹介と情報発信

中国国内の研究者や日本留学希望者のために、日本や日本留学に関する情報・資料を提供し、日本からの情報の発信基地とします。また、センター内には茶室も設けています。日本の伝統文化を紹介する場としても活用していきます。

②広島大学からの留学支援

広島大学から、多くの日本人学生が短期や長期の留学生として中国で学んでいます。

これから中国へ留学しようとする学生に対しては、希望大学の入試要項等の日本語翻訳・情報提供などを、既に中国で学んでいる学生にはキャンパスライフの相談窓口や留学生の相互交流の場を提供するなどの支援を行います。

③優秀な留学生の確保

中国からの留学生が日本の大学院へ入学する場合、入学試験を受けるために半年から1年を日本で過ごすことが多く、留学生にとって大きな負担になっています。北京研究センターを利用して中国国内で入試の予備審査を行うことで、優秀な学生が中国の大学卒業後すぐに秋期入学できるようになります。将来は、学部生の予備審査を行うことも視野に入れていきます。

また、日本留学希望者への日本語教育を行い、留学に十分な日本語能力を養成します(日本語能力試験1級合格を目指します)。

④研究者による共同研究及び研究者交流の支援

日中両国の研究者による共同研究や研究者交流の拠点として北京研究センターを活用していきます。共同研究のニーズやシーズの把握、共同研究者相互の連携による新たな研究の展開及び若手研究者の発掘・育成を目指します。また、研究成果を広く公開するため、機関誌「北研學刊」を定期的に刊行します。

(4)日本語スピーチコンテスト

「日本語作文スピーチコンテスト」は、広島大学北京研究センターが中国・北京市の首都師範大学にて、日中交流事業の一つとして2006年から毎年開催しているイベントです。

(5)出版物

北京研究センターでは、研究成果を広く公開するため、機関誌「北研學刊」を定期的に刊行しています。

※2023年度をもって終了しました。

画像をクリックしていただくと、北研學刊第13号～第20号の表紙と目次をご覧ください。



(6) 関連記事

1. 北京研究センター関連

[2004年11月 北京研究センター移設新装開所式を挙](#)

[2009年5月 北京研究センターTV会議システム導入](#)

[2011年10月 北京研究センター10周年記念シンポジウムを開催](#)

[2016年4月 岸田文雄外務大臣が広島大学北京研究センターを訪問](#)

2. 日本語作文スピーチコンテスト(北京)

[2015年11月 第10回開催](#)

[2016年11月 第11回開催](#)

[2017年11月 第12回開催](#)

[2018年11月 第13回開催](#)

[2019年11月 第14回開催](#)

[2021年3月 第15回オンライン開催](#)

[2022年3月 第16回オンライン開催](#)

[2022年12月 第17回オンライン開催](#)

[2023年11月 第18回開催](#)

3. 留学フェア・説明会等(北京)

[2014年5月 中国地区6大学留学フェア及び広島大学研究科説明会を開催](#)

[2015年5月 中国地区大学留学フェアおよび広島大学研究科説明会を開催](#)

[2016年5月 中国地区大学留学フェア及び広島大学研究科説明会を開催](#)

[2017年5月 広島大学・福山大学留学フェアを開催](#)

[2018年5月 広島大学留学フェアを開催](#)

[2019年5月 広島大学留学説明会を開催](#)

4. 国際連携・学術交流

[2017年9月 北京・首都師範大学で数学に関する共同会議](#)

[2020年12月 首都師範大学と「広島大学森戸国際高等教育学院北京校」の設置に関する覚書を締結](#)

2. 広島大学・上海師範大学文化教育共同研究センター

(1)センター紹介

設置場所:上海師範大学(上海市)

2009(平成 21)年 12 月 26 日、「広島大学・上海師範大学文化教育共同研究センター」を中国・上海師範大学内に開設しました。

本センターは、広島大学と中国との学術・教育交流の推進を目的として、優秀な留学生の確保、海外留学の支援、共同研究及び研究者交流の支援、日本事情の紹介及び情報発信等を行うために設置されました。

本センター設置をきっかけとして、本学と中国の大学との交流が更に進展していくことが期待されます。



(2)センターの取組・概要等

・広島大学・上海師範大学文化教育共同研究センター

1. 優秀な留学生の確保

(1) 各種短期研修(派遣・受入)の実施

2. 広島大学からの留学支援

(1) 教員・学生への教育研究活動支援

3. 中国校友会との連携

4. 日本語スピーチコンテストの実施

(3)関連記事

1. 校友会・交流

[2009年12月 広島大学上海校友会を設立](#)

[2014年10月 広島大学上海校友会\(師生聯誼会\)を開催](#)

[2017年3月 上海師範大学の朱学長が本学を訪問](#)

2. 日本語作文スピーチコンテスト(上海)

[2016年9月 第3回開催](#)

[2017年9月 第4回開催](#)

[2018年9月 第5回開催](#)

[2019年12月 第6回開催](#)

[2021年5月 第7回オンライン開催](#)

[2022年5月 第8回オンライン開催](#)

3. 日本語作文スピーチコンテスト(貴州)

[2018年3月 第3回開催](#)

[2019年9月 第4回開催](#)

3. 広島大学・燕山大学 言語文化研究センター(秦皇島市)

(1)センター紹介

2018年8月25日、広島大学の佐藤利行理事・副学長、寺本康俊副学長、李均洋北京研究センター副センター長及び本田義央国際センター副センター長が燕山大学を訪問し、燕山大学の張福成副学長ら関係者とともに、中国翻訳協会黄友義副会長及び河北大学張如意図書館長らの列席のもと、「広島大学・燕山大学 言語文化研究センター」を開設しました。

広島大学と燕山大学は、2001年9月に大学間交流協定を締結し、広島大学が実施する森戸高等教育学院3+1プログラムで燕山大学の学生を受け入れるなど、交流を深めてきました。

本センターを拠点に、今後も更に燕山大学との交流を拡大していきます。

(2)センターの取組・概要等

1. 優秀な留学生の確保

(1) 各種短期研修(派遣・受入)の実施

2. 広島大学からの留学支援

(1) 教員・学生への教育研究活動支援

4. 広島大学国際教育交流センター(重慶市)



(1)センター紹介

2019年8月26日、広島大学は中国・重慶市の西南政法大学にて、本学20か所目の海外拠点となる広島大学国際教育交流センターを開所しました。開所式には本学から本田義央教授(森戸国際高等教育学院)、

西南政法大学から岳彩申副学長らが式に出席しました。

広島大学と西南政法大学は、2016年10月に大学間交流協定を締結し、主に法学分野での連携を中心に交流を深めてきました。

本センターの開所を機に、今後の両大学及び両国間の更なる交流拡大が期待されます。

(2)センターの取組・概要等

1. 優秀な留学生の確保

(1) 各種短期研修(受入)の実施

2. 広島大学からの留学支援

(1) 教員・学生への教育研究活動支援

(2) 学生交流プログラムの実施

5. 広島大学－長春大学特別支援教育研究センター



(1)センター紹介

2019年9月8日、広島大学は中国の長春大学にて、本学21か所目の海外拠点となる広島大学－長春大学特別支援教育研究センターを開所しました。開所式には本学から丸山恭司副学長、長春大学から李志瑶学長らが式に出席しました。

広島大学と長春大学は、2017年9月に大学間交流協定を締結し、主に特別支援教育での連携を中心に交流を深めてきました。

本センターの開所を機に、今後の両大学及び両国間の更なる交流拡大が期待されます。

(2)センターの取組・概要等

1. 優秀な留学生の確保

(1) 各種短期研修(派遣・受入)の実施

2. 広島大学からの留学支援

(1) 教員・学生への教育研究活動支援

6. 広島大学 PERSADA 共同プロジェクトセンター



(センター設置 (左から越智学長、ギナンジャール氏、佐藤理事・副学長))

(1)センター紹介

2016(平成 28)年 2 月 11 日、「広島大学 PERSADA 共同プロジェクトセンター」を、インドネシア共和国ジャカルタ市のダルマプルサダ大学内にあるインドネシア元日本留学生協会(PERSADA)に開設しました。同協会は、日本とインドネシアの友好親善の架け橋となることを目的に 1963 年に日本留学経験者により設立された団体で、同大学は、日本での留学経験を母国の発展に活かすために 1986 年に PERSADA により設立された大学です。

開所式には、広島大学の越智光夫学長、PERSADA 顧問のギナンジャール・カルタサスミタ氏(本学経営協議会学外委員)、ダルマプルサダ大学のダダン・ソリヒン学長が参加しました。

本センター設置をきっかけとして、本学のインドネシア国内での同窓会活動やネットワーク構築およびダルマプルサダ大学との交流が更に進展していくことが期待されます。

(2)センターの取組・概要等

1. 優秀な留学生の確保

(1) 3+1 プログラムの広報

2. 留学交流の推進

- (1) 日本語・日本文化特別研修での受入
- (2) AIMS 学生交流プログラムの実施
- (3) 3+1 プログラムでの受入

3. 校友会との連携

4. START プログラム実施
5. ダルマプルサダ大学協力コンソーシアムを通じた連携
6. 日本語スピーチコンテストの実施

(3)関連記事 https://www.hiroshima-u.ac.jp/international/network/bases/persada_center

1. 校友会・交流

[2011年12月 インドネシアの三都市で広島大学フェアの開催、校友会の発足](#)

[2013年3月 被爆した元南方特別留学生に対して広島大学名誉博士号を授与](#)

[2013年9月 ダルマプルサダ大学と学術交流協定を締結](#)

[2016年2月 広島大学 PERSADA 共同プロジェクトセンターの開設](#)

[2017年3月 インドネシア・ダルマプルサダ大学のダダン・ソリヒン学長が本学を訪問](#)

[2019年2月 ハサヌディン大学及びダルマプルサダ大学を訪問](#)

[2019年2月 広島大学・ダルマプルサダ大学 大学間交流キックオフミーティングを開催](#)

[2019年7月 ダルマプルサダ大学トリ・マルジョコ学長が本学を訪問](#)

2. 日本語作文スピーチコンテスト

[2016年11月 第1回開催](#)

[2017年10月 第2回開催](#)

[2018年3月 第3回開催](#)

[2019年12月 第4回開催](#)

[2020年12月 第5回オンライン開催](#)

[2021年12月 第6回オンライン開催](#)

[2022年12月 第7回開催](#)

7. 広島大学バンドンセンター



(1)センター紹介

2010(平成22)年7月16日、「広島大学バンドンセンター」をインドネシア共和国のバンドン工科大学内に開設しました。

本センターは、広島大学とバンドンにある学術交流協定校との学術・教育交流の推進を目的として、優秀な留学生の確保、海外留学の支援、共同研究及び研究者交流の支援、日本事情の紹介及び情報発信等行うために設置されました。

本センター設置をきっかけとして、本学とバンドンにある大学との交流が更に進展していくことが期待されます。

(2)センターの取組・概要等

1. 優秀な留学生の確保

(1) バンドンでの留学説明会の開催

2. 留学交流の推進

(1) インドネシア教育大学(UPI)への G.ecbo インターンシップ学生派遣

3. 校友会との連携

(3)関連記事

1. 校友会・交流

[2011年9月 広島大学バンドン校友会\(インドネシア\)を設立](#)

[2011年9月 バンドン工科大学で広島大学フェアを開催](#)

[2017年10月 バンドン工科大学にてジョイントセミナーを開催](#)

2. 留学フェア

[2013年11月 インドネシアの3会場で広島大学留学フェアを実施](#)

[2014年10月 インドネシア教育大学にて広島県留学フェアを開催](#)

[2016年10月 インドネシアの3大学で広島大学留学説明会を開催](#)

8. 広島大学ベトナムセンター



(1)センター紹介

広島大学は2010年2月にベトナム国家大学ホーチミン市校と大学間交流協定を締結、同大学内に拠点を設置することとし、11月に傘下の人文社会科学大学内に「広島大学ベトナムセンター」を設置いたしました。ベトナム国家大学ホーチミン市校は、ベトナムに2つある国家大学の一つで傘下に工科大学、自然科学大学、人文社会科学大学、国際大学、情報工科大学といった複数の大学を持つ総合大学であり、またホーチミン市には医科薬科大学など広島大学が交流協定を締結しているいくつかの大学があることから、幅広い学術交流が期待されます。

具体的には、ベトナムからの留学生の獲得、ベトナムに留学や研修に行く広島大学の学生によるセンターオフィスの活用、日本とベトナムの学術交流、文化交流活動への支援、ベトナムにおける日本語や日本研究の教育・学習促進への支援、広島大学ベトナム校友会の活動拠点を漸次行っています。

(2)センターの取組・概要等

1. 優秀な留学生の確保

(1) 留学説明会の開催

(2) PEACE 学生交流プログラムの実施

2. 学術交流・産学連携等の推進

(1) 広島・ホーチミン産学官連携セミナーの実施(2016年, 2017年)

3. 日本文化紹介

(1) 日本文化イベントへの参加

4. START プログラム実施

5. ベトナム校友会との連携

6. 日本語スピーチコンテストの実施

(3)関連記事

1. 校友会・交流

[2010年2月 ベトナム国家大学ホーチミン市校と協定締結](#)

[2010年12月 ホーチミン市に広島大学ベトナムセンターを設置](#)

[2012年5月 人文社会科学大学にて「皐月祭り」に参加](#)

[2013年11月 ホームカミングデーにホーチミン市人文社会科学大学の Sen 学長と Luc 教授が参加](#)

[2015年1月 広島大学北部ベトナム校友会を開催](#)

[2015年5月 人文社会科学大学の「皐月祭り」に参加](#)

[2015年11月 留学時代の思い出インタビュー：グエン・ティエン・ルック氏](#)

[2017年5月 人文社会科学大学の「皐月祭り」に参加](#)

[2018年5月 人文社会科学大学の「皐月祭り」に参加](#)

[2019年5月 人文社会科学大学の「皐月祭り」に参加](#)

2. 日本語作文スピーチコンテスト

[2017年2月 第1回開催](#)

[2018年3月 第2回開催](#)

[2019年3月 第3回開催](#)

[2021年4月 オンライン開催](#)

[2022年3月 オンライン開催](#)

3. 研修・セミナー

(START)

[2015年3月 第22回 START プログラム](#)

[2016年3月 第30回 START プログラム](#)

[2017年2月 第37回 START プログラム](#)

[2019年3月 第61回 START プログラム](#)

(その他)

[2016年8月 第1回ベトナム環境セミナーを開催](#)

[2017年8月 第2回広島・ホーチミン産学官連携セミナーを開催](#)

9. 広島大学ブラジルセンター



(1)センター紹介

2009(平成 21)年 4 月 27 日、「広島大学ブラジルセンター」をブラジル連邦共和国サンパウロ市の「広島文化センター」内に開設しました。

本学は、これまでブラジルから広島県費留学生制度や JICA 日系研修員制度等により多くの留学生及び研修員を受け入れてきましたが、本センター設置を機に、ブラジルをはじめとする中南米地域からの更なる留学生の受入れ、研究者交流の実施等の教育学術交流の進展が期待されます。

(2)センターの取組・概要等

1. 学生交流

(1) 夏期特別研修「平和と法」の実施による学生受入

(2) サンパウロ大学への学生派遣

2. 学術交流の推進

(1) 客員教授の招へい

(2) サンパウロ大学(USP)教員による特別講義

3. 大学間交流の推進

4. 校友会との連携

(3)関連記事

1. 校友会・交流

[2009年4月 広島大学ブラジルセンターを開設](#)

[2010年9月 サンパウロ大学との学術交流協定の締結](#)

[2011年12月 広島大学ブラジル校友会の発足, 新技術セミナーの開催](#)

[2012年10月 サンパウロ大学法学部から感謝状, 本学教授による特別講演の実施](#)

[2012年10月 ブラジル国家原子力エネルギー委員会との意見交換](#)

[2013年9月 サンパウロ大学人文学部とアジア研究に関する学術協力協定の締結、同大学日本語講座創立50周年記念行事での本学教員の基調講演](#)

[2014年1月 サンパウロ大学長を迎えて本学幹部との意見交換会を実施](#)

[2014年8月 サンパウロ州研究財団\(FAPESP\)と研究協力協定を締結](#)

[2014年8月 留学時代の思い出インタビュー:大西 博巳氏](#)

[2015年11月 ブラジル・サンパウロ市の2大学と学術交流を実施](#)

2. 特別研修

[2012年7-8月 日本語・日本文化特別研修を実施、学長表敬の様子](#)

[2013年7-8月 夏期特別研修「平和と法」2013を実施](#)

[2014年7-8月 夏期特別研修「平和と法」2014を実施](#)

[2015年7-8月 夏期特別研修「平和と法」2015を実施](#)

[2016年7-8月 夏期特別研修「平和と法」2016を実施](#)

[2017年7-8月 夏期特別研修「平和と法」2017を実施](#)

[2018年7-8月 夏期特別研修「平和と法」2018を実施](#)

(4)ブラジル留学生活レポート の詳細は[こちら](#)

10. 広島大学台湾研究センター



(1)センター紹介

2013(平成 25)年 12 月 27 日、台湾の国立中央大学内に広島大学台湾研究センターを開設しました。国立中央大学は、本学と学術交流協定の締結校でもあり学生交流や教職員の交流をこれまでも積極的に進めてきました。

開所式は国立中央大学の周景揚学長、李光華副学長らの臨席のもと開催し、周学長の挨拶の後、浅原学長は「本学では、グローバル人材の育成は最重点事項と位置付け、そのための一つとして海外拠点の設置を推進しています。このたびの設置において、周学長をはじめ国立中央大学の方々にご尽力を賜り感謝申し上げます。さらなる学生双方向の交流や研究者交流などを活発に行うと共に、職員研修も積極的に推進していきたいと思えます。本日、台湾に初めて海外拠点を設置できたことは、今後のアジアおよび貴学と本学との間の交流がさらに高いレベルになると確信しています」と挨拶しました。

台湾研究センターの開設を契機に、さらなる共同研究の推進、学生交流や教職員交流を進め、「学生が成長する大学、国際的に存在感のある大学」へと発展を目指します。

(2)センターの取組・概要等

1. 留学交流の推進

- (1) 日本語・日本文化特別研修での受入
- (2) 短期語学・文化特別研修での学生派遣

2. 学術交流の推進

3. 台湾校友会との連携

4. START プログラムの実施

5. 日台学長フォーラムの実施(広島開催)

(3)関連記事 https://www.hiroshima-u.ac.jp/international/network/bases/taiwan_c

1. 校友会・交流

[2013年12月 広島大学台湾校友会を開催](#)

[2014年12月 台湾で広島大学研究科説明会を開催](#)

[2016年10月 台湾・国立中央大学から表敬訪問](#)

[2018年6月 第2回日台大学学長フォーラムを開催](#)

[2018年10月 広島大学台湾校友会を開催](#)

2. 研修・セミナー

(START)

[2015年3月 第23回STARTプログラム](#)

[2015年9月 第26回STARTプログラム](#)

[2016年8月 第34回STARTプログラム](#)

[2017年3月 第42回STARTプログラム](#)

[2017年8月 第43回STARTプログラム](#)

[2019年3月 第60回STARTプログラム](#)

[2019年9月 第64回STARTプログラム](#)

(特別研修)

[2016年7月 広島大学夏期日本語・日本文化特別研修](#)

[2017年1月 広島大学冬期日本語・日本文化特別研修](#)

[2017年7月 広島大学夏期日本語・日本文化特別研修](#)

[2018年1-2月 広島大学冬期日本語・日本文化特別研修](#)

[2019年1月 広島大学冬期日本語・日本文化特別研修\(台湾・中国・非漢字圏\)](#)

3. 留学フェア

[2016年7月 日本留学フェア](#)

11. 広島大学代表オフィス(ロシア・トムスク国立教育大学内)



(1)センター紹介

広島大学は、2005年9月にロシアのトムスク国立教育大学と大学間協定を締結し、2006年10月に同

大学の中に、広島大学の代表オフィスを設置(ロシア連邦 トムスク国立教育大学)いたしました。

主に、学部生、大学院生、教員の学術交流などの支援、共同研究などの調整、トムスク国立教育大学における日本語教育の支援、日本文化の紹介、広島大学の教育プログラムの紹介、プロモーションを行うことを目的にしています。

これまで、2006年に広島大学を紹介するイベント(「広島大学の日」)や国際会議「Peace Studies and Peace Discourse in Education」を実施しました。2007年にも10月にトムスク国立教育大学のValery Obukhov 学長、Konstantin E. Osetrin 副学長(イノベーション政策・情報化担当)、Marina Voitekhovskaya 副学長(学術担当)、Sergey D. Odintsov 教授が広島大学に来学され、拠点の活用について協議を行いました。

* トムスク教育大学との交流として HUSA(広島大学短期交換留学)による学生交流が行われています。トムスク教育大学からの留学生の受入や2011年2月にはトムスク教育大学にて約2週間のスプリングスクールが行われ、本学から3名の学生が参加しました。2012年2月にもスプリングスクールが予定されています。

(2)センターの取組・概要等

1. 学生交流

(1) HUSA スプリングスクール学生派遣

2. 研究交流の促進

3. 広島大学広報物の送付

12. KU-HU コラボレーションリソースセンター(ケニア・ケニヤッタ大学内)



(1)センター紹介

広島大学は、2007年3月にケニヤッタ大学と大学間協定を締結し、2009年2月6日に国際協力研究拠点であるKU-HUコラボレーションリソースセンターをケニヤッタ大学との共同施設として同大学のメインキャンパス内に設置しました。同センターはアフリカにおける様々な分野の共同研究、文献の収集を担う拠点であり、特に本学としては、これまでのケニヤッタ大学との研究者交流を展開させ、「基礎教育開発のため

の「アフリカ・アジア大学間対話プロジェクト」を初めとした国際共同研究事業でのワークショップの開催や大学フェアの実施、日本語日本文化の紹介、また学生のインターン派遣を行っています。

(2)センターの取組・概要等

1. 学生交流

(1) ケニヤッタ大学への G.ecbo インターンシップ派遣

2. 研究交流の促進

3. 広島大学広報物の送付

(3)開所式の様子

以下の写真は 2009 年 2 月 6 日にケニヤッタ大学にて行った開所式の様子です。

(設置場所:ケニヤッタ大学 本部キャンパス教育学部(School of Education) 内)

当日は、岩谷滋雄在ケニア日本国大使のご臨席のもと、浅原利正学長がケニヤッタ大学の Olive Mugenda 学長と同センターに関する覚書を締結し、記念植樹や除幕式などを行いました。また両大学関係者の他、JICA(国際協力機構)ケニア事務所、長崎大学熱帯医学研究所ケニアナイロビ研究拠点、日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターからもご出席頂き、広島大学のケニア帰国同窓生や広島大学にて研修受講した JICA 帰国研修員など総勢 40 名近くの参加を得て、開所を祝うとともに同センターの今後の展開について様々な意見交換を行いました。



KU-HU コラボレーションリソースセンター設置に関する覚書の締結

(右:ケニヤッタ大学 Olive Mugenda 学長)



両大学の連携を記念する除幕式



岩谷滋雄大使(在ケニア日本国大使館)のご祝辞



広島大学を紹介する浅原学長



岩谷滋雄大使(在ケニア日本国大使館)とのテープカット



開所式での記念植樹(中央が浅原学長)



KU-HU コラボレーションリソースセンターの前で、岩谷滋雄大使と両大学関係者



KU-HU コラボレーションリソースセンターの中にて

(4)大学フェアの開催

広島大学は、2010年3月6日(土)・7日(日)に、本学の協定大学であり、海外拠点を設置しているケニヤッタ大学(ケニア・ナイロビ市)で大学フェアを開催しました。



多くの学生が広島大学のブースを訪れました



帰国留学生の説明に耳を傾ける参加者

フェアは、本学の教育開発国際協力研究センターが中心に推し進める「教育開発のためのアフリカ・アジア大学間対話プロジェクト」(A-A ダイアログ)のワークショップ(3月3日～5日)に続いて行われ、本学の他に秋田大学、日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科(資料配布のみ)、長崎大学熱帯医学研究所(資料配布のみ)が参加しました。ブース出展によるガイダンスのほか、大学

紹介プレゼンテーション、帰国留学生による体験談、日本文化(折り紙)紹介、日本紹介 DVD 上映と、盛りだくさんの内容で行いました。

ケニアでの日本の大学を紹介するフェアは初めての試みで、ケニヤッタ大学のご厚意と多大なご協力のもと、両日とも大盛況のうちに終了しました。会場となった教育学部教育基礎学科の教室(本学の海外拠点: KU-HU コラボレーションリソースセンターの隣)には約 200 名近くの学生、教職員、関係者が訪れ、広島大学や大学院で学べることなど質問が飛び交い、説明に真剣に耳を傾けていました。

13. 広島大学カイロセンター



(1)センター紹介

2016(平成 28)年 3 月、「広島大学カイロセンター」をエジプト・カイロ大学内に開設しました。

本センターは、広島大学とエジプトとの学術・教育交流の推進を目的として、優秀な留学生の確保、海外留学の支援、共同研究及び研究者交流の支援、日本事情の紹介及び情報発信等を行うために設置されました。

本センター設置をきっかけとして、本学とエジプトの大学との交流が更に進展していくことが期待されます。

(2)センターの取組・概要等

1. 学術交流

(1) 教員交流の実施

(2) 学術交流ワークショップの実施

(3) エジプト高等教育大臣の講演会実施

2. 大学間交流の推進

(1) エジプトの大学等との学術交流協定の締結

3. エジプト日本科学技術大学(E-JUST)との連携

(3)関連記事 https://www.hiroshima-u.ac.jp/international/network/bases/cairo_c

1. 校友会・交流

[2015 年 12 月 エジプト・カイロ大学と大学間交流協定を締結](#)

[2016 年 2 月 エジプト・カイロ大学長の本学訪問](#)

[2016年7月 広島大学カイロセンター設置貢献者を「国際交流アンバサダー」に認定](#)
[2016年12月 エジプトでカイロ大学とともにジャパンフェスティバルを開催](#)
[2018年8月 エジプト・カイロ大学と大学間交流協定を更新](#)
[2018年8月 広島大学原爆死没者追悼式に在京エジプト大使, カイロ大学長が出席](#)
[2018年10月 第1回ピース・レクチャー・マラソン\(エジプト高等教育大臣 Khaled Atef Abdel-Ghaffar氏\)を開催](#)
[2019年4月 高等教育・科学研究グローバル・フォーラムにて越智学長らが講演](#)
[2019年4月 エジプト高等教育省と学術・教育における連携のための意向書を締結](#)
[2019年4月 越智学長らがエジプト カイロ大学を訪問](#)
[2019年5月 第90回広島大学講演会\(能化正樹エジプト大使\)を開催](#)
[2019年6月 エジプト通信情報技術省と協力・連携のための意向書を締結](#)
[2019年8月 エジプトで広島大学・カイロ大学主催の原爆の日追悼イベント「平和を叫ぶ」を開催](#)
[2020年1月 元五輪柔道エジプト代表選手ラシュワン氏が広大を訪問](#)
[2020年2月 エジプト学生が医学部の短期留学生受入プログラムで日本の学生・教職員と交流](#)
[2020年2月 本学修了生でカイロ大学教授マーヒル氏が「はだしのゲン」全巻のアラビア語翻訳を終える](#)
[2020年2月 エジプト学生が手術支援ロボット「ダヴィンチ」を体験、新型コロナウイルスも学ぶ](#)

14. 広島大学・ガララ大学ピースメモリアルセンター

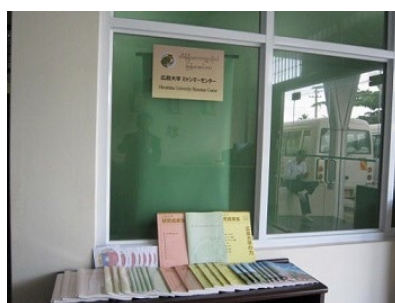
(1)センター紹介

広島大学は、エジプトのガララ大学とともにガララ大学に「広島大学・ガララ大学ピースメモリアルセンター」を設置しました。

[2021年4月 ガララ大学との教育協力に関する合意書締結](#)

[2021年8月 広島大学・ガララ大学ピースメモリアルセンター設置署名式](#)

15. 広島大学ミャンマーセンター



(1)センター紹介

広島大学は、2016年5月に、復建調査設計(株)と広範な分野での研究協力・連携を目指し包括的研究協力協定を締結しました。また、国際的な産学官連携活動を通じて世界で活躍できる人材の育成を図るため、ビジネスや研究の国際化に関する協力も行うこととなりました。2016年8月、同社が20年ほど進出しているミャンマーに、広島大学ミャンマーセンターを開設しました。同時に、産学官共働で、現地の社会問題である交通渋滞解決のための交通セミナーも成功裡に開催しました。

本拠点は、東南アジアにおける本学産学官連携の活動拠点となり、現地企業との国際産学官連携体制の強化・人材の育成や地元の大学等の国際産学官連携活動の支援が期待されます。まずは本拠点において現地企業や大学等との連携を強化していくとともに、留学生獲得に向けて、現地大学生への情報提供につとめます。

(2)センターの取組・概要等

1. 産学連携

(1) 交通セミナーの実施

(2) 復建調査設計との包括協力の実施

2. 学生交流

(1) PEACE 学生交流のプログラムの実施

3. 校友会との連携

(3)関連記事 https://www.hiroshima-u.ac.jp/international/network/bases/myanmar_c

1. セミナー・講演会

[2017年10月 第2回広島・ヤンゴン産学官連携セミナー](#)

[2018年10月 第3回広島・ヤンゴン産学官連携セミナー](#)

16. 広島大学グアナファトセンター



広島大学越智学長とグアナファト大学ゲレーロ学長

(1)センター紹介

広島大学は、2017年3月1日に、メキシコ グアナファト州のグアナファト大学内に、「広島大学グアナファトセンター」を開設しました。本拠点設立の目的は、スーパーグローバル大学として、以下を実現することです：

1. 中南米の大学(スペイン語圏)との恒常的な研究者および留学生の交流を実現する
2. セミナー等を通じ、メキシコに進出している日系企業および現地企業の人材育成、さらには共同研究につなげる
3. 広島大学のレピュテーションを国際的に高める

グアナファト州は広島県と友好提携を結んでおり、マツダやそのサプライヤーが多く進出している州です。また本学は、グアナファト大学とは工学研究院の部局間協定に続き、大学間の国際協力協定も締結するなど、広島地域の産学官が一体となって国際連携を進めることができる地域です。

本センターは広島大学にとって、13番目の拠点となります。

中南米における本学産学官連携の活動拠点として、現地企業との国際産学官連携体制の強化、グアナファト大学をはじめとする地元の大学等との連携や、留学生獲得に活用していきます。

(2)センターの取組・概要等

1. 産学連携

- (1) 国立工科大学(IPN)でのセミナー実施
- (2) グアナファト大学でのセミナーの実施
- (3) メキシコ人研修員の受入

17. 広島大学メキシコセンター



(1)センター紹介

2019年9月9日、広島大学はメキシコ国立自治大学にて、本学22か所目の海外拠点となる広島大学メキシコセンターを開所しました。

開所式には本学から越智光夫学長、佐藤利行理事・副学長、メキシコ国立自治大学からケン・オオヤマ副学長

らが式に出席しました。

広島大学とメキシコ国立自治大学は、2017年8月に大学間交流協定を締結し、産学連携等を中心に交流を深めてきました。

本センターの開所を機に、今後の両大学及び両国間の更なる交流拡大が期待されます

(2)センターの取組・概要等

1. 産学連携

メキシコ人研修員の受入

18. 広島大学—カンボジア王国教育、青年、スポーツ省連携センター



「広島大学—カンボジア王国教育、青年、スポーツ省連携センター」前での集合写真

(1)センター紹介

広島大学は、2016年3月に、平和的発展と「人財」育成への協力のために、カンボジア王国教育、青年、スポーツ省と学術交流・協力協定を締結しました。

2017年3月29日、カンボジア王国教育大臣ならびにカンボジア王国駐劄特命全権大使ご臨席のもと、カンボジア王国教育、青年、スポーツ省高等教育にて「広島大学—カンボジア王国教育、青年、スポーツ省連携センター」の開所式を執り行いました。

本センターは、カンボジアの首都プノンペンの中心地に位置するという利点を生かし、カンボジアにおける本学の活動拠点となります。カンボジア政府、現地企業、現地大学との連携体制の強化・人材の育成に努めるとともに、留学生獲得に向けて、現地学生への本学の情報提供、及び現地への本学派遣留学生に対するサポートを行います。

広島大学は本センターの開設を契機に、さらなる学術交流、学生交流を進め、「100年後にも世界で光り輝く大学」へと発展を目指します。

(2)センターの取組・概要等

1. 学生交流

- (1) PEACE 学生交流のプログラムの実施
- (2) 現地での留学説明会, アイデア・マイニングセミナーの実施

2. 大学間交流

- (1) PEACE 国際シンポジウムの実施
 - (2) 教員交流の実施
3. 教員養成大学設立のための基盤構築プロジェクトとの連携
4. 校友会との連携

(3)関連記事

1. 校友会・交流

[2017年11月 カンボジアの6大学と大学間交流協定を締結](#)

[2017年11月 国際シンポジウム「ASEAN 共同体の新たな戦略と挑戦」を開催](#)

[2017年11月 カンボジア王立大学等8大学長との交流会\(昼食会\)を開催](#)

[2018年10月 カンボジア教育・青少年・スポーツ省のピット・チャムナン長官らが本学を訪問](#)

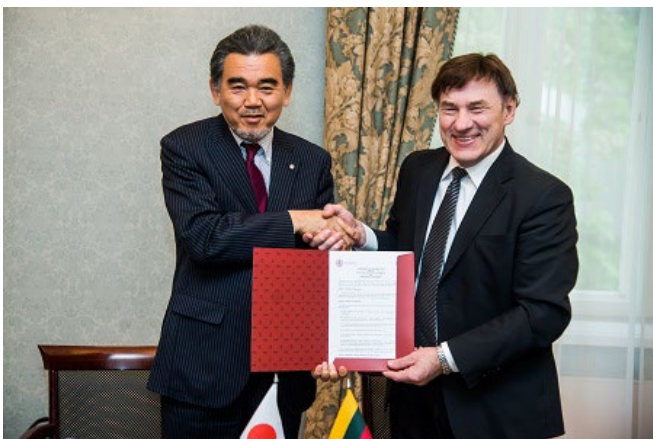
2. 研修・セミナー

[2017年12月 留学説明会および PEACE 学生交流プログラム説明会 2017 を開催](#)

[2018年3月 PEACE カンボジアスタディツアー2018 を開催](#)

[2019年2~3月 第5回 START+プログラムを実施](#)

19. 広島大学リトアニアセンター



(1)センター紹介

広島大学は、2017年5月8日、ヴィータウタス・マグナス大学と大学間交流協定を締結しました。越智学長が同大学を訪問し、ユオザス・アウグティス学長とともに協定書に署名しました。また、ヴィータウタス・マグヌ

ス大学のアジア研究センターに、広島大学リトアニアセンターを設置しました。

協定調印式の後、広島大学の佐藤理事・副学長が同大学で日本語を学んでいる学生等を対象に、非漢字圏の学生が日本語能力を高める上で壁となる「漢字」について講演を行いました。

今回、大学間交流協定に加えて、学生交流協定も締結しました。今後、短期プログラムや交換留学プログラムでの学生交流に加えて、研究者の交流を行い、ヴィータウタス・マグヌス大学との学術交流を拡大させていただきます。

(2)センターの取組・概要等

1. 学生交流

(1) リトアニア健康科学大学との Erasmus+プログラムによる学生派遣

2. START プログラム実施

3. 日本語スピーチコンテストの実施

(3)関連記事

1. 校友会・交流

[2017年10月 リトアニア健康科学大学と大学間交流協定を締結](#)

[2018年9月 越智学長がリトアニア健康科学大学で ERASMUS+に関する合意書に署名、同大学で開催されたセミナーで発表](#)

[2018年10月 リトアニアのサウリュス・スクヴェルネリス首相が本学講演\(第2回ピース・レクチャー・マラソン\)](#)

[2019年5月 ヴィータウタス・マグヌス大学のアウグティス学長が本学を訪問](#)

2. 日本語スピーチコンテスト

[2018年9月 第1回日本語スピーチコンテスト](#)

[2019年5月 第2回日本語スピーチコンテスト](#)

[2020年10月 第3回日本語スピーチコンテスト\(オンライン\)](#)

[2021年11月 第4回日本語スピーチコンテスト\(オンライン\)](#)

3. 研修・セミナー

[2019年8-9月 第6回 START+プログラム](#)

20. 広島大学ザールラントセンター

(1)センター紹介

広島大学はザールラント大学に、広島大学ザールラントセンターを設置しました。

(2)センターの取組・概要等

1. 学生交流

(1) 医学系学生受入プログラムの実施

2. 研究交流の促進

21. 広島大学ミュンスターセンター



(1)センター紹介

2019年5月2日、広島大学はドイツ・ミュンスター大学に、本学19か所目の海外拠点となる広島大学ミュンスターセンターを開所しました。

広島大学とミュンスター大学は、2017年2月に大学間交流協定を締結し、交流を深めてきました。また、ミュンスターは、ドイツ30年戦争の後に締結されたウェストファリア条約が締結された地で、広島と同じく国際平和都市として知られています。

両校は今後、共同での平和に関するカンファレンス等の行事実施(PEACE2020プロジェクト)、学生向けセミナーの連携実施(アイデア・マイニングセミナー)等交流を進めていきます。

本センターの開所を機に、今後の両大学及び両国間の更なる交流拡大が期待されます。

(2)センターの取組・概要等

1. 教育における協力

(1) 学生向けセミナーの連携実施(アイデア・マイニングセミナー)

(2) PEACE2020プロジェクトの推進

2. 学術交流の推進

(1) PEACE2020プロジェクトの推進

22. 広島大学モンゴル研究センター



(1)センター紹介

2018年9月3日、広島大学はモンゴル・ウランバートル大学にて、本学18か所目の海外拠点となる広島大学モンゴル研究センターを開所しました。

開所式では、在モンゴル日本大使館及び国際交流基金モンゴル-日本人材開発センターの方々のご臨席を得て、越智光夫学長とウランバートル大学のサンジャア・バイガルサイハン(Sanjaa Baigalsaikhan)学長などによるテープカットが行われた後、両学長による看板除幕が行われました。

広島大学とウランバートル大学は、2016年11月に大学間交流協定を締結し、広島大学が実施する「日本語日本文化特別研修」でウランバートル大学の学生を受け入れるなど、交流を深めてきました。

本センターの開設を機に、今後の両大学間の更なる交流拡大が期待されます。

(2)センターの取組・概要等

1. 教育における協力

(1) テレビ会議システムを活用した授業配信

2. 学術交流の推進

(1) 研究誌『広島大学－ウランバートル大学モンゴル研究』の発行

3. 優秀な留学生の確保

(3)関連記事

1. 校友会・交流

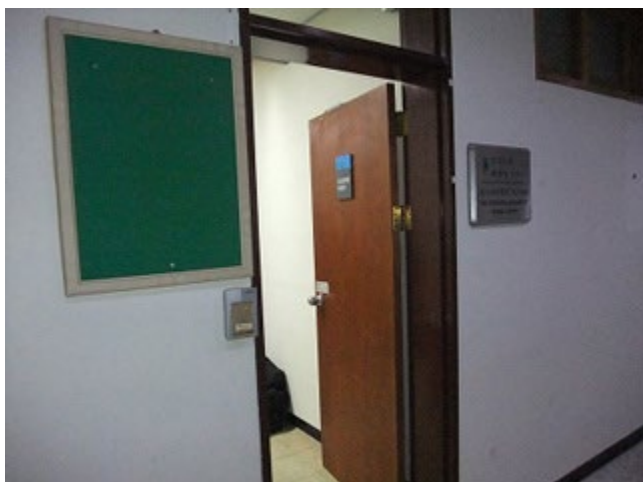
[2018年9月 広島大学モンゴル研究センターを開設](#)

2. 日本語関連イベント

[2019年4月 第1回日本語スピーチコンテストを開催](#)

[2021年9月 第1回日本語「読書感想文」コンクール表彰式を開催](#)

(2023年2月活動終了)広島大学韓国センター



(1)センター紹介

平成23(2011)年11月18日、韓国との学術交流、学生交流等の推進を目的として、忠北清原郡にある韓国教員大学内(忠北清原郡)に広島大学韓国センターを開設しました。

開所に際して、山根理事・副学長が韓国教員大学 權 載述 学長を表敬訪問し、本センター設置に対するお礼を述べるとともに今後のセンターの活動計画、交流計画について意見交換を行いました。続いて、センターが入居する応用科学棟に移動し、金 重福 企画処長とともに韓国センターの看板除幕式を行いました。

韓国教員大学は韓国国内で有数の教員養成系大学であり、特に教育学や教員養成分野における研究者交流や学術交流の更なる進展が期待されます。

(2)関連記事

[2011年11月 広島大学韓国センターを開設しました](#)

[2012年5月 韓国教員大学にて広島大学・韓国教員大学ジョイントセミナーを開催](#)

[2014年10月 韓国教員大学派遣成果報告会の開催](#)

[2015年10月 日韓共同理工系学部留学生事業の日本語予備教育の実施](#)

[2016年4月 留学時代の思い出インタビュー:金範基氏](#)

[2016年10月 日韓共同理工系学部留学生事業の日本語予備教育の実施](#)

[2017年10月 日韓共同理工系学部留学生事業の日本語予備教育の実施](#)

[2018年1月 韓国教員大学職員と意見交換を実施](#)

以上

参考1 :ブラジル留学生活レポート

社会科学部法政システム専攻 神代貢志

①ブラジル留学生活レポート 2016年11月1日

◇自己紹介

サンパウロ大学に留学している神代貢志(こうじろたかし)といいます。

この度、ブラジルでの留學生活についてのレポートを書かせていただくことになりました。

よろしくお願いします。

私は法学を専攻している大学院生で、専門は刑事訴訟法になります。現在は、ブラジルの刑事訴訟法を研究するため、ブラジル最高峰の大学であるサンパウロ大学法学部(Faculdade direito de Universidade de São Paulo)に留学しています。

実はサンパウロ大学への留学は二回目です。前回は2014年8月から2015年2月までの約7か月間の留学でした。今回の留学は2016年9月からの約一年間を予定しています。前回の留学時はサンパウロ大学とJASSOからの奨学金を受給していましたが、今回はトビタテ留学JAPAN(<http://www.tobitate.mext.go.jp/>)という官民共同の奨学金を受給しています。

◇大学での授業について

サンパウロ大学での授業は、そのほとんどがブラジルの公用語であるポルトガル語で行われます。教授の中にはとても早口で話す人もいて(ブラジル人でもノートをとるのが間に合わないほど)、プロジェクタに資料を投影してくれる授業はまだ理解しやすいのですが、これがないと、少し自分の知識外の事が話題になると全くついていけなくなります。そのため、友人のとったノートを送ってもらい、復習をするようにしています。



(写真上:サンパウロ大学法学部キャンパス)

授業以外での活動について

私はサンパウロ大学アジア法研究センター(<https://celabr.org/>)のコーディネーター(幹事のような立場)を務めています。毎週月曜日に行われる講演に出席したり、アジアの法経済学を専門とする講師を招く交渉をしたりします。

10月末には、私自身が講師として「日本の刑事司法改革と司法取引の導入」についての発表を行いました。私にとって初めてのポルトガル語での発表で、しかも高度に専門的なものだったので、非常に難しいものでしたが、友人の手助けもあり、なんとか講演の体をなしたと思います。



②ブラジル留学生活レポート(第2回) 2017年1月6日

気付けば、2017年を迎えていました。今回の留学期間のうち三分の一ほどがすでに経過してしまったということですね。早いものです。気を抜いていたらすぐに貴重な留学期間が終了してしまいます。気を引き締め、少しでも多くのものが得られるよう精進する決意を新たにしました。

ブラジルのクリスマス

11月になれば、ブラジルの町はクリスマスの飾りつけが始まります。気が早い！南半球に位置するブラジルのこと、真夏のクリスマスになるので30度を超える日もしばしばですが、サンタの服装は変わらず。すごく暑そうです。

多くのブラジル人はクリスマスを家族と一緒に過ごすようです。また、クリスマス当日は休日なので、これに合わせて休暇を取り、旅行する人も多くいます。

私はといえば、旅行をしようかとも思っていました。下宿先のオーナーが家で近所の人たちとホームパーティーをするというので、お金もかからないしそれで良いかと思い旅行の計画はやめにしました。しかし、当日になってまさかのキャンセル。理由は近所の人が集まらなかったからだそうです。当日キャンセルはよくあることですが、さすがにこれには閉口してしまいました。しかし、当日に急な誘いがあるのもまたブラジル。友人の誘いで教会に行き、キリストの誕生まで表現した賛美歌を聴いてクリスマスの夜を過ごしました。正直あまり楽しかったとは言えませんが、キリスト教圏のクリスマス文化に直に触れる貴重な体験ができました。

ブラジルの新年

ブラジルでは新年を迎えるにあたり、翌年への願いを込めた色の服を着る慣習があります。最も多いのは、平和を意味する白。他には財産を意味する黄色、愛を意味する赤等があります。こうした思い思いの服を着て、ビーチに集まったり、街での年越しイベントに参加したりします。

私はサンパウロの大通りであるアベニダパウリスタの路上で行われる年越しイベントに参加しました。容易に身動きが取れないほどの人が集まり、酒を飲んだり、踊ったり、手持ちのロケット花火を発射したりしながら年越しの瞬間を待ちます。

2017年を迎えた瞬間、大きな花火が打ちあがり、周りの人があけたシャンパンが降り注いできました。これまでの人生にはない派手な年越しとなりました。



(写真上:アベニードパウリスタでの年越しイベントの様子)

③ブラジル留生活レポート(第3回)2017年3月9日

3月になりました。サンパウロ大学では新学期が始まり、新入生歓迎のイベントも開かれています。法学部では大講堂でバンドの演奏があったり、コーラス隊による国家斉唱が行われたりしていました。

カーニバル

すこし時間を遡った2月の下旬はブラジル各地でカーニバルが開催されていました。日本ではリオのカーニバルが有名ですが、実はここサンパウロやその他ブラジル各地でも開催されており、地域ごとに異なる様式があるようです。大きく分ければ二つの形式があります。一つはエスコラと呼ばれる大きな会場で山車や大掛かりな衣装と共に行進し、審査によって優勝者等が決まるもの。もう一つはブロックと呼ばれる路上での行進です。打楽器隊も組織されていますが、一般人も各自思い思いの仮装をして行進に参加します。

私は両方に参加したことがあります。前回留学時の2015年には、日伯外交樹立120周年をテーマに設定したアギア・ジ・オーロ(黄金の鷹)と呼ばれるチームに参加し、農民の格好で行進に加わりました。直接見ることはできませんでしたが、山車にはジーコが乗っていたそうです。

今年は路上で遭遇したブロックについて行進する程度でしたが、それでも打楽器の大音量は体に振動として直接伝わるほどの迫力で、「カーニバルのために生きている」とすら言われる人たちのエネルギーを直接感じることができました。



写真①:(2015 年)アギア・ジ・オーロ本番直前。頭の上には野菜と果物が。打楽器隊やメインのダンサー達を含めて 2000 人ほどいたかな?この年は青森からねぶたの山車も参戦。



写真②:(2017 年)あるブロックの出発前の様子。彼らが行進を始めると、どこからともなく仮装した人達が集まってきます。行進ルートは google マップで表示されます。

クリチバ連邦裁判所訪問

個人的にはそのカーニバルよりも大きな出来事がカーニバルからさらに遡った 1 月末にありました。サンパウロの隣の州にあるパラナ州のクリチバ連邦裁判所に訪問し、セルジオ・モーロ判事とその同僚の方々にインタビューを行う機会に恵まれたことです。

モーロ判事はブラジルのみならず世界経済に影響を及ぼしている巨大汚職事件「ペトロロン」の担当の判事です。汚職摘発への徹底的な姿勢とその辣腕から、世界で最も影響力のある 10 人にも選ばれています。そして、この汚職の捜査に用いられているのが司法取引と呼ばれる制度。これこそが私の研究テーマです。かねてからの疑問を直接ぶつけることができ、意見を伺うことができたことは大変な僥倖でした。間違いなく今回の留学のハイライトと言えます。このような機会を与えてくださった方々にはどれだけ言葉を尽くしても感謝の念を伝えきれません。留学生活も折り返し地点を回りました。この経験を糧にこれからもますます研究に励むとともに、残り半年のブラジル生活をより実り多いものにしていきたいと思います。

④ブラジル留学生活レポート(第4回)

私がこの文章を執筆している頃、日本はGW明けですね。ここブラジルも最近では連休が続きましたが、これ

に加えてゼネストで交通機関が止まったこともあり、金曜日に実施される授業が一か月近く開講されないこともありました。ブラジルには常夏のイメージを持たれる方もいると思いますが、南半球に位置するサンパウロ、現在は秋から冬に差し掛かっていこうかというところ。肌寒い日も続きます。体調には気を付けて、残り少ない留学生活を楽しみ、有意義なものにしたいと思います。

表彰を受けました

4月下旬、私が翻訳のお手伝いをしていた「サンタクルス病院の歴史」という本の出版記念式典がありました。その中で、本の出版に貢献したということで表彰を受けました。

サンタクルス病院はかつて日本病院と呼ばれていた病院で、その名の通り主にブラジルに移住した日本人やその子孫達によって、開拓地で満足な医療を受けられなかった日本人移民のために作られました。戦時中、ブラジルにとっての敵国となった日本にルーツを持つ人々には、日本語での会話が禁止される等の様々な制限が加えられ、日本病院も政府によって没収されようとしていました。これを避けるため、日本病院は法的に日本政府との関りを断つ「内国化」の手続きを行い、名前もサンタクルス病院と変更しました。

ブラジルに留学しているにも関わらず、私はこうした日本移民の方々の歴史を全く知らずにいました。今回この本の翻訳に関われたことで、彼らの歴史のうちの一部を知ることができたことを嬉しく思います。

JORNAL ニッケイ新聞:

『サンタクルス病院の歴史』= 邦訳版の出版式典を開催 = 刊行の貢献者を表彰

<http://www.nikkeishimbun.jp/2017/170505-61colonia.html>

サンパウロでの食生活について

留学前は、海外での食生活に適応できるか心配していましたが、その心配は杞憂に終わりました。サンパウロには多くの日系移民が存在することもあり、日本の食材や日本食レストランには困ることがありません。私は基本的には自炊で日本の家庭料理や中華料理を作っていますが、家から徒歩二分の場所に新たにできたすき屋や、ラーメン屋に行くことも多くあります。

ブラジルの料理も気に入っています。日本でも徐々に人気が出てきたブラジル風バーベキューの「シユラスコ」(一説によると正しくはアメリカ風シユラスコがバーベキューというのが正解らしい)や、豆やソーセージ等を煮込んだブラジルの国民食「フェイジョアード」等色々ある中で、私が最も気に入っているのは「ムケツカ」と呼ばれるヤシの油とココナッツミルクで魚介類を煮込んだシチューのような料理です。

そのほかにも、移民国家であるブラジルでは、世界各国の料理を楽しむことができます。外国料理店の豊富さでは、サンパウロは広島よりもはるかに恵まれています。私はこちらに来て初めてアラブ料理とポーランド料理を食べました。

サンパウロは食べることが大好きな人にもおすすめできる都市です。



写真上:ムケツカ。具や油によって様々な種類があります。米と一緒に食べます。



写真上:サンパウロのとあるレストランの鶏清湯ラーメン。こってりしすぎず鶏の風味が効いていてなかなかのおいしさ。これで値段さえ安くなれば・・・

⑤ブラジル留学生活レポート(第5回)

7月。大学のセメスターも終了したので、そろそろ帰国する日本人留学生たちも出てきました。私も二か月と少々の後には帰国することになります。去年の今頃は応募した奨学金(<http://www.tobitate.next.go.jp/>)に合格し、留学の準備を始めたころだったかと思いますが、本当について最近のこのように思います。

日本祭り

先日、サンパウロでは海外最大規模の日本祭りが開催されました。主催は県連。ブラジルには移民の方々が設立した日本全国47の都道府県人会が存在しますが、この各県人会を束ねる組織がこの県連です。日本祭りのフードエリアでは各県人会がそれぞれの県の特産品(本当に特産品か?と首をひねるようなものもありましたが)を売る屋台を出店します。私が食べたのは大分県人会の鶏飯と団子汁。日本で食べるものと変わらないのではないかと考えたほどのクオリティでした。人参の飾り切りもして見てもきれいです。

会場中心部に設けられたステージでは、日系人団体による太鼓の演奏や空手の演武、筑波大学剣道部によるデモンストレーション等も行われました。会場奥のホールでは、歌や音楽の演奏に加えてコスプレのコンテストやミス日系コンテストも行われました。

その他の各エリアには、約200の日本または日系企業・団体のブースが設置されました。日本企業としては、トヨタをはじめとした自動車メーカーや、麒麟、味の素といった食品メーカー、スポーツ用品のアシックス等が出展していました。農林水産省、JETRO、JICAのブースもあり、それぞれワークショップやデモンスト

レーション等により日本文化を発信していました。現地の団体としては、様々な現地食品メーカーが醤油や味噌を売っていたり、以前私とその歴史本の翻訳に携わったサンタクルス病院(第4回参照)が最新の設備を展示したりしていました。

会場の規模も巨大でしたが、来場者も18万人を超えたとのこと。見たところ、非日系の方のほうが多かったようでした。地球上の対蹠地であるブラジルで、これほどの大きな祭りが開催できるほど日本という国が受け入れられている事実には感動を覚えます。109年前に移民を開始してから、想像を絶する苦難を乗り越え、文字通り未開の地を切り拓いて開墾し、各地に持ち込んだ作物を育て、現地に定着させ、ここまでの祭りを築き上げた日系移民の方々には畏敬の念を禁じ得ません。慣れない土地にも関わらず私が不自由ない食生活を遅れているのも、彼らのおかげですね。

ただ、近年は日本に移住してきた世代が高齢になり、実際の日本を知らない日系人も多いことから、現地日系団体が今後正確な日本文化を発信できなくなるのではないかと懸念があるそうです。今後は本土と現地との間の協力体制を更に強化し、両国間の人材交流を促進することが求められています。



写真上:日本祭り会場の様子



写真上:大分県人会の鶏飯と団子汁



写真上:トヨタのブース。初代カロラの展示が人気でした。

ブラジルでの住まい

初めての留学が決まった際、不安だったのは住居の問題でした。はじめは現地の受け入れ教授の方に交渉してもらい、大学の寮に入ることになりました。寮費は無料とのことで安心しましたが、インターネットを使ってもこの寮の写真やこれから住むというときに欲しい情報を得ることはできませんでした。私としては、設備は多少古くても良いしシャワーやキッチン等は共同でもいいので個室が欲しいところでした。実際に行ってみると、なんと入り口はオートロック。開錠は指紋認証。これは期待できると思えばドアを開けたところ、2段ベッドが8台並び、あとはロッカーと冷蔵庫のみが備え付けられた部屋でした。個室どころの話ではありません。ベッド間には仕切りすらないプライバシーゼロ空間です。しかも、共同のシャワーは温水が出ません。到着したのは8月で、南半球に位置するブラジルは冬でした。ドライヤーもなかったため髪を乾かすこともできず、すぐに風邪をひいてしまいました。この時すぐに引っ越しを決意し、一か月後に寮を出ました。

言葉の通じない国で住居を探すのは大変なことです。サンパウロで暮らす日本人には強い味方がいます。前項に登場した県人会です。いくつかの県人会は自前の宿泊施設を有していて、日本人や日系人に安く貸してくれます。個室もありますし、なにか問題が発生すれば日本語で対応してくれる人もいます。私は広島県人会の個室に入居することができました。シャワーやトイレも個人用です。時々停電もありましたが、おかげさまで快適に過ごすことができました。

今回の留学では、家に帰ってもポルトガル語を話すことができる環境を作るために、Facebookの住まい探しグループや、Easyquartoというサイトを使って部屋を探し、ブラジル人と住居をシェアすることに決めました。今住んでいるのは、地下鉄の駅からほど近い一軒家の個室で、トイレ・シャワー・キッチンは共同。5人のブラジル人、1人のアルゼンチン人、1人のコロンビア人とシェアしています。部屋はとても狭いですが、治安のいいエリアに位置していて、近くには日本食も購入できるスーパーがあったり、とんかつや中華のレストランもあったり、さらに最近では牛丼のすき家もできたので、立地としては最高です。

他の日本人滞在者の話を聞くと、共同エリアの使用をめぐるトラブルになったり、人間関係がうまくいかなかったりして悩むことも多いようです。上記のサイトに情報が載っている物件の多くは、その日に入居することも逆に好きなタイミングで転居することも可能なので、実際に住んでみて気に入らなければすぐに引っ越すこともできるのは利点ですね。私も一度色々あって家主が信用できなくなった家から引っ越しています。

⑥ブラジル留學生活レポート(第6回・完)

帰国しました

後ろ髪を引かれる思いもありましたが、9月下旬に帰国しました。10月に入り、広島大学での新セメスターも始まりましたが、まだ帰国の実感が湧かず、なんとなく地に足がつかないような感覚を覚えながら日本での生活を再開しました。留学前、一年という期間は終わってみれば短いだろうなと思っていました。まさにその通りでしたが、久々に訪れた西条の町や広島大学、実家がある福岡市やそこに住む人達にも多くの変化があって、一年という月日は何か物事が変わるには十分な時間であることも痛感しました。今回の留学を経て私も変わったでしょうか。



写真：帰国便はエチオピア航空。一瞬でしたが、人生初のアフリカ大陸上陸！

アマゾン

今回の留学は前回に比べて語学も上達し、自分でやれることが増えたので、ブラジルでしかできないことはできるだけやっておこうと思い、様々なコミュニティに顔を出したり、ボランティア活動をしたりしていました。ブラジルは広く、地域ごとに風土や住む人々の気質も異なるため、ブラジル国内を旅行することも強く勧められました。比較的近隣のミナスジェライス州ベロ・オリゾンテやパラナ州クリチバに行ったことは以前の留学生活レポートで紹介した通りですが、ブラジル渡航が決まった直後から行きたいと思っていたアマゾン地域への旅行も実現しました。

一口にアマゾンといってもそこは流域面積で(一説には長さにおいても)世界最大の川。ブラジルの複数の州どころかペルー、ボリビア、ベネズエラなど複数の国にまたがって 1000 以上もの巨大な支流が流れています。私が訪れたのはアマゾン河口の街パラ州バレン、アマゾンに浮かぶ世界最大の中州(九州と同じくらいのサイズ)マラジョー島、アマゾンの首都と呼ばれるアマゾナス州マナウスの3か所。マラジョー島以外は、おそらく皆さんがアマゾンと聞いて思い浮かべるイメージとは違い、高層ビルも立ち並ぶ立派な都市です。ジャングルツアーやアクティビティに赴くには、港から船に乗る必要があります。マナウスでは世界最大級の淡水魚であるピラルクの釣り堀に行ったり、アマゾンカワイルカと一緒に泳いだり、原住民の集落を訪れるツアーに参加しました。貴重な経験だったのですが、アマゾンのジャングルを存分に楽しむためには宿泊を伴うツアーに参加することが必要で、予算と日程の都合上それが不可能だったので、アマゾンの表層的なところにしか触れることができませんでした。そのこともあってか、約一週間ほどのアマゾン旅行で最も印象に残ったのがマラジョー島滞在です。バレンの港から船で 3 時間ほどで公営の港に着き、そこからバスで滞在するロッジに向かいましたが、そこら中に馬や水牛がいて、それに乗って移動する人たちもいました。宿泊地の近くにはレストランやスーパーマーケットのようなものは当然なく、車で送迎してもらって農場で昼食をとるか、クッションの効かない自転車で舗装されていない道を 30 分ほど行かなければなりません。サンパウロにいれば、時折困ることはあっても、基本的に何不自由なく暮らすことができますが、同じブラジルであってもマラジョー島での生活は別世界のように感じました。アマゾン地域一つとってもまだまだ味わいきれませんが、多様性に富むブラジルの新たな一面を感じるいい機会になったと思います。



写真上:ベレンの街並み。高層ビルが立ち並ぶ。海に見えるのはもちろんアマゾン川。



写真上:マナウスの市場で売っていたピラニア(食用)。1 キロ 200 円少々。



写真上:マラジョー島市街地。いくつか回った軽食屋の看板には何種類かピザの名前が書いてあったけれど、どこも売り切れとのことだった。警察も水牛に乗ってパトロール。

留学を終えて

今回私は自分の研究テーマであり日本には専門家がほぼいないと思われるブラジル刑事法についての研究や、現地専門家との人脈の構築、語学等のスキルの向上を主な目的として留学を行いました。語学をはじめ、まだまだ自分の理想には程遠く、目的が達成できたとは言い難い部分も多々ありましたが、人脈作りに関してはいろいろな人に助けられて期待以上の成果を得ることができました。

ブラジルとは、今後も一生涯に渡って関わっていきたいと思っています。自らの研究分野を通してはもちろんのこと、より広く、日伯両国の友好関係を促進できるような人材になりたいと思っています。新たな目標も見つかりましたが、まずはここ広島大学でブラジル刑事法についての論文を執筆します。

私の留学生活レポートは今回で最後となります。留学先としてはマイナーな国であり、日本ではあまりいい

点が報道されないため、興味はあっても実際に渡航するとなると、その不安から断念してしまう人も多いか
 と思います。しかし、私は初回留学時にはほとんど何の準備もできないまま、7か月というそう短くない期間
 を楽しく過ごすことができ、また今回はより長い1年の留学を行うに至りました。正直に言って、私は留学が
 決まるまではブラジルという国についてほとんど興味を持っていませんでした。しかしそんな私でも実際に
 ブラジルでの生活を続けていくうちに、すっかりこの国に魅了され、生涯関わっていきたいと思うまでにな
 りました。ブラジルという国はそれだけ懐が深く、多様な人を受け入れてくれる国だと思えます。少しでも興
 味がある人は、実際に行ってみることを強くお勧めします。不安はあると思いますが、行ってさえしまえば他
 人の目というフィルターを通さないリアルなブラジルを知ることができ、きっと気に入るはずで

す。拙い文章でしたが、この留學生活レポートが少しでもブラジルに興味のある人への手助けとなればと思
 います。ここまで読んでくださり、誠にありがとうございました。

参考2：首都師範大学とのダブルディグリープログラム

広島大学と首都師範大学は、平成27年に共同大学院プログラムを開始し、博士課程前期にてダブルディグ
 リープログラムを実施しています。

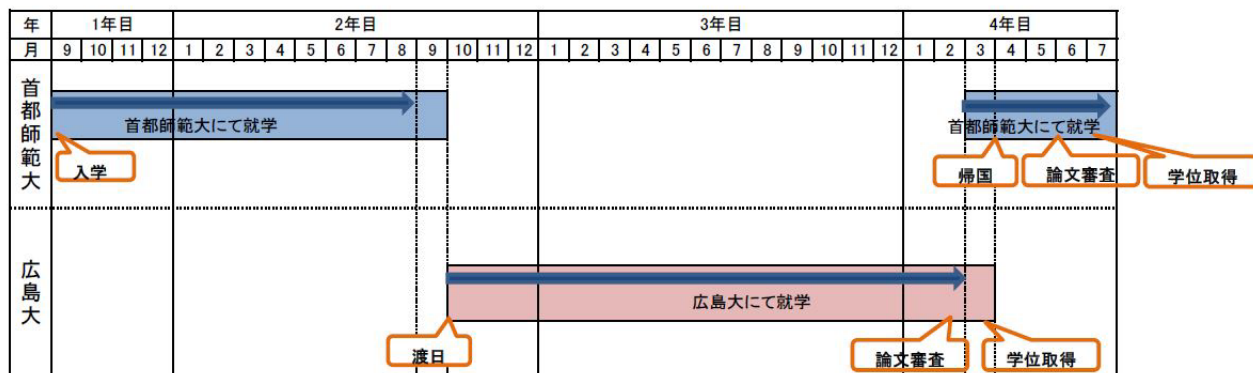
【実施研究科(プログラム)】

・人間社会科学研究科

(人間総合科学プログラム、人文学プログラム、法学・政治学プログラム)

・先進理工系科学研究科

(数学プログラム、物理学プログラム、地球惑星システム学プログラム、基礎化学プログラム)



【お問い合わせ先】

広島大学グローバル化戦略グループ

E-mail: kokusai-group@office.hiroshima-u.ac.jp (@は半角@に置き換えてください)